

平成18年度 近畿地区公立中学校  
修学旅行実施状況報告書

近畿地区公立中学校修学旅行委員会  
財団法人 全国修学旅行研究協会

# 目 次

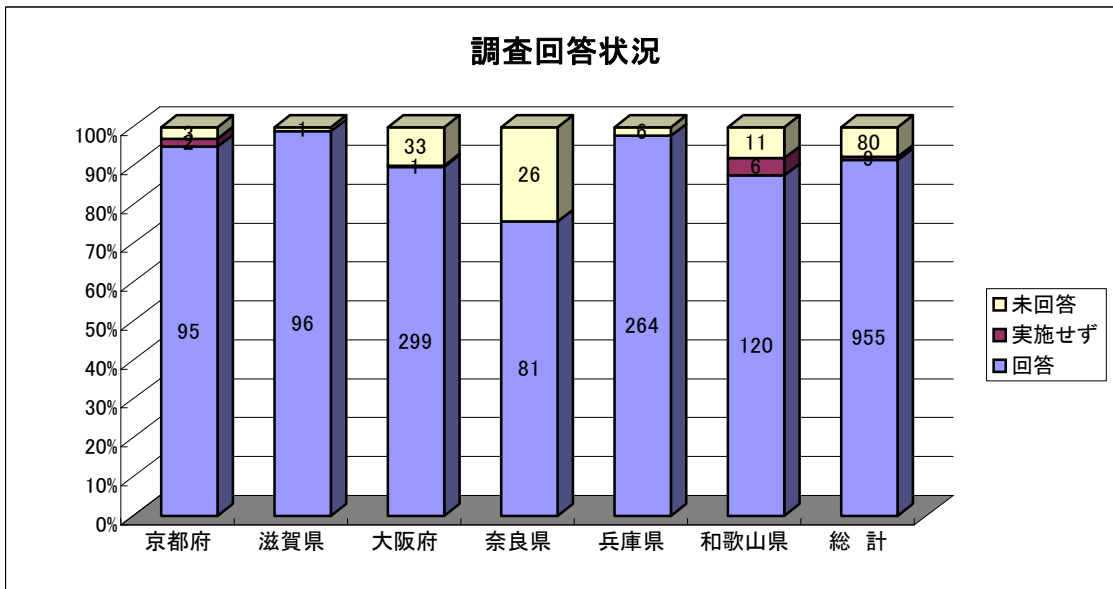
1. 平成18年度回答状況について
  1. 実施状況について 1-(1)実施時期について
2. 1-(2)実施方面について(月別・方面別)
  - 1-(3)実施方面について(府県別・方面別)
3. 1-(4)旅行費用について 最高額、最低額、平均額(県別・方面別)
4. 宿泊について(1泊目)
5. 宿泊について(2泊目)
6. 2. 主要交通機関について
  - (1)近修委の集約列車利用 (2)集約以外 集約以外の利用交通機関
7. 3. 今後の(数年内)の旅行先について
8. 4. 体験学習を取り入れましたか
  5. 教育的意義は
  6. 事前学習(準備)は
9. 7. 体験学習実施にあたり留意したこと
  8. 事後学習について
10. 9. 今後の課題
11. 体験学習に関するご意見
15. 修学旅行に関するご意見

# 平成18年度 回答状況について

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
回答	95	96	299	81	264	120	955
実施せず	2		1			6	9
未回答	3	1	33	26	6	11	80
総計	100	97	333	107	270	137	1,044

- ・実施せずとは、小規模校のため18年度は実施しなかった学校です。(隔年実施)
- ・京都府は府立高校附属中学校2校を含めています。



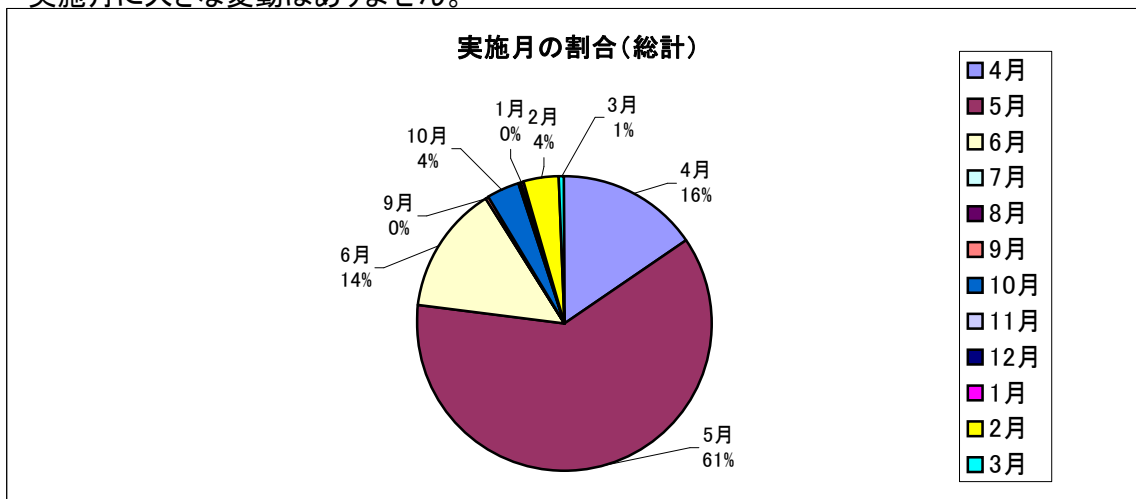
## 1.平成18年度 実施状況について

### 1-(1) 旅行実施時期について(月別・県別)

(単位:校数)

出発月	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
4月	7	57	12	12	60	1	149
5月	59	8	180	61	197	81	586
6月	1	20	100	4	6	3	134
7月			1				1
8月				1			1
9月		2					2
10月	1					33	34
11月	3						3
12月							0
1月	1					2	3
2月	17	9	6	3	1		36
3月	6						6
総計	95	96	299	81	264	120	955

- ・実施月に大きな変動はありません。



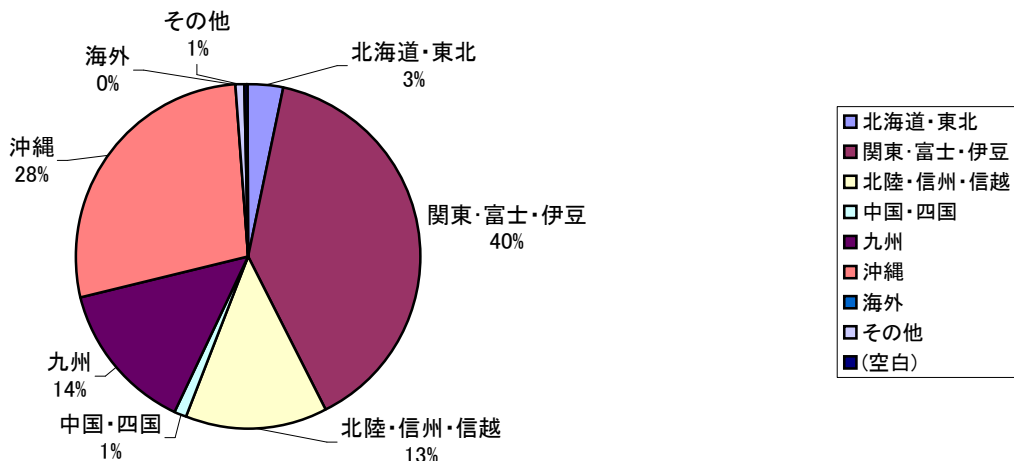
1-(2) 旅行実施方面について(月別・方面別)

(単位:校数)

方面	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
北海道・東北	1	28	1										31
関東・富士・伊豆	40	257	30	1	1	2	32	2			5	5	375
北陸・信州・信越	18	54	27							1	25	1	126
中国・四国	1	7	3										11
九州	39	67	25								4		135
沖縄	48	169	45				1			2	1		266
海外								1					1
その他	2	2	3								1		8
(空白)		1					1						2
<b>総計</b>	<b>149</b>	<b>586</b>	<b>134</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>34</b>	<b>3</b>		<b>3</b>	<b>36</b>	<b>6</b>	<b>955</b>

・全体では関東が減少し(昨年395)、沖縄が増加(昨年238)しています。その他は主に近畿地方です。

方面別比率



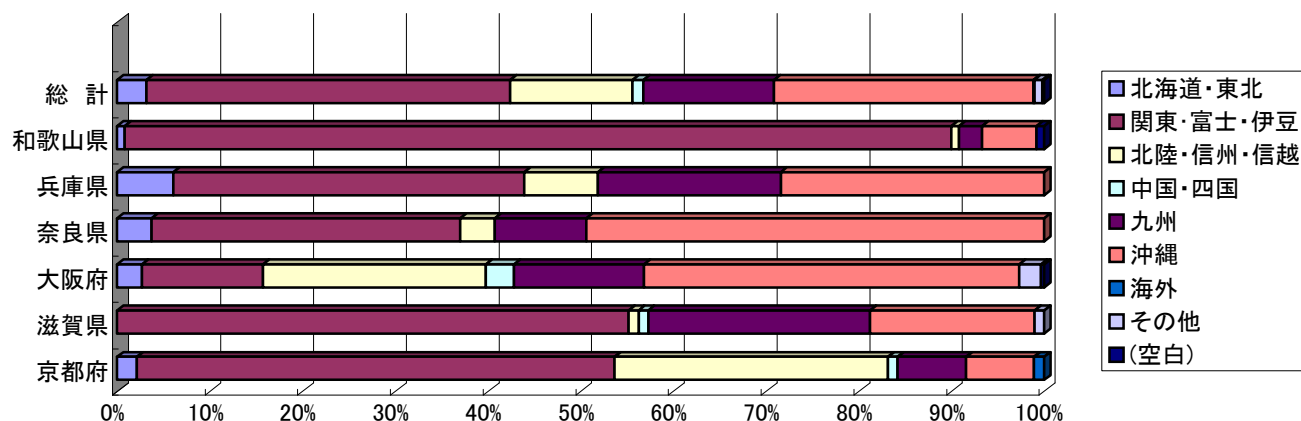
1-(3) 旅行実施方面について(府県別・方面別)

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計	昨年度
北海道・東北	2		8	3	16	1	30	26
関東・富士・伊豆	49	53	39	27	100	107	375	395
北陸・信州・信越	28	1	72	3	21	1	126	131
中国・四国	1	1	9				11	18
九州	7	23	42	8	52	3	135	153
沖縄	7	17	121	40	75	7	267	238
海外	1						1	2
その他		1	7				8	1
(空白)			1			1	2	
<b>総計</b>	<b>95</b>	<b>96</b>	<b>299</b>	<b>81</b>	<b>264</b>	<b>120</b>	<b>955</b>	<b>964</b>

・全体的な流れとして、北海道・沖縄が増加し、その他の方面は減少しています。

旅行実施方面(府県別、方面別)



1-(4) 旅行費用について 最高額、最低額、平均額 (県別・方面別)

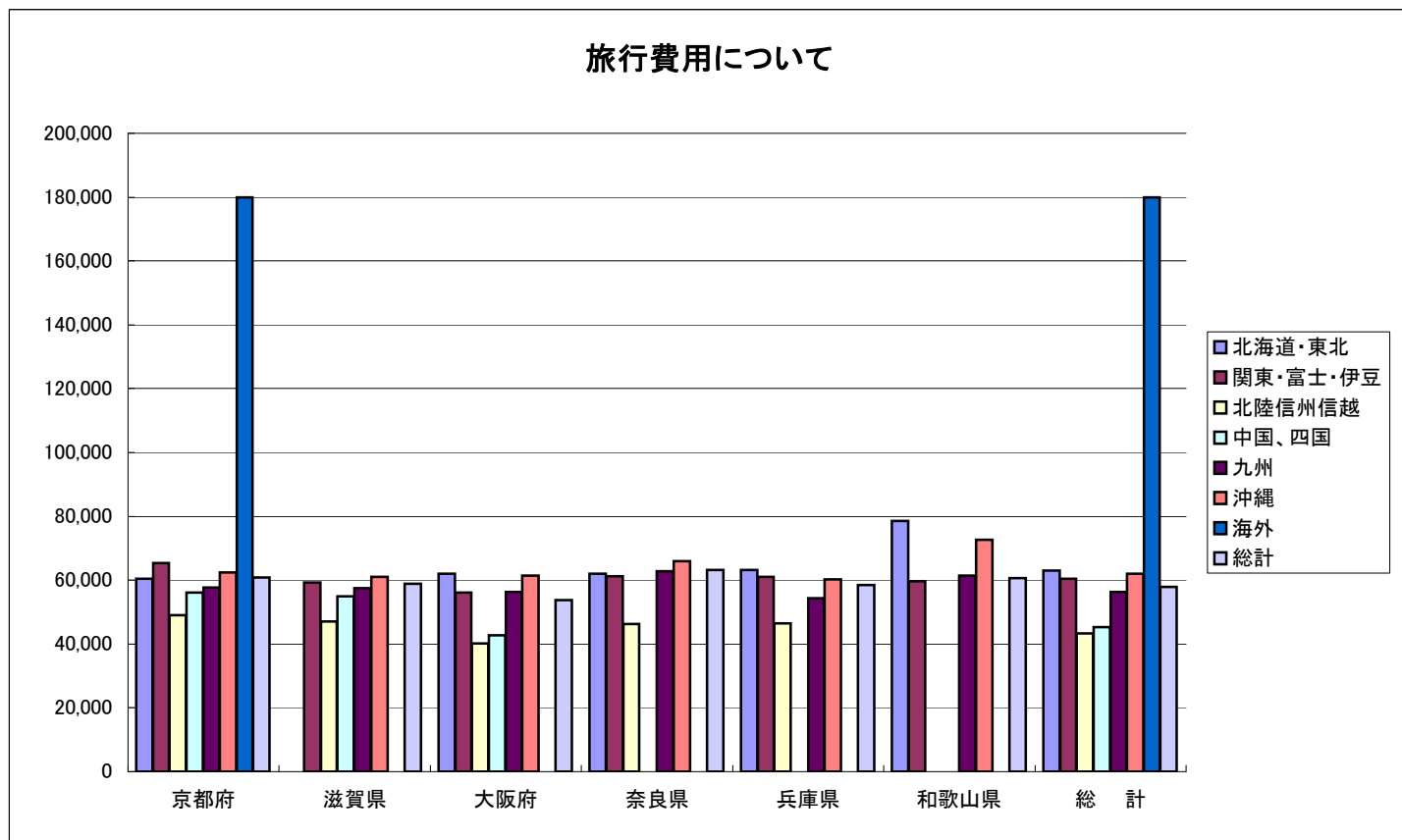
(単位:円)

方面	データ	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
北海道・東北	最高額	64,337		68,815	65,000	81,000	78,610	81,000
	最低額	56,520		56,000	60,000	53,990	78,610	53,990
	平均額	60,429		61,913	61,941	63,104	78,610	62,973
関東・富士・伊豆	最高額	88,725	71,873	65,943	87,786	78,000	83,050	88,725
	最低額	52,000	45,000	44,726	51,317	47,249	44,119	44,119
	平均額	65,275	59,248	56,137	61,308	61,113	59,701	60,512
北陸・信州・信越	最高額	70,000	47,000	59,000	50,000	55,900		70,000
	最低額	27,000	47,000	29,500	42,000	38,334		27,000
	平均額	49,027	47,000	40,117	46,333	46,426		43,394
中国・四国	最高額	56,052	55,000	52,000				56,052
	最低額	56,052	55,000	35,000				35,000
	平均額	56,052	55,000	42,797				45,343
九州	最高額	62,500	70,277	67,000	68,700	62,012	61,895	70,277
	最低額	50,705	42,147	45,000	58,956	46,604	61,000	42,147
	平均額	57,754	57,505	56,216	62,753	54,315	61,448	56,248
沖縄	最高額	68,000	73,703	72,921	88,101	70,000	82,439	88,101
	最低額	55,000	55,700	31,552	55,000	53,063	60,000	31,552
	平均額	62,460	61,105	61,397	65,863	60,225	72,571	62,042
海外	最高額	180,000						180,000
	最低額	180,000						180,000
	平均額	180,000						180,000
その他	最高額		47,000	58,327				58,327
	最低額		47,000	18,000				18,000
	平均額		47,000	40,386				41,213
(空白)	最高額			40,500			52,000	52,000
	最低額			40,500			52,000	40,500
	平均額			40,500			52,000	46,250
総計	最高額	180,000	73,703	72,921	88,101	81,000	83,050	180,000
	最低額	27,000	42,147	18,000	42,000	38,334	44,119	18,000
	平均額	60,792	58,818	53,757	63,124	58,483	60,629	57,962

・最高最小は一校ずつ、平均は全学校の平均です。総平均は昨年58,016円で大きな変動はありません。

・京都府の海外180,000円はオーストラリア6日間の研修です。(府立高校付属中学校)

旅行費用について



宿泊地について(1泊目)

(単位:校数)

方面	1泊目	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
北海道・東北	トナム			1				1
	ニセコ	2		4	1	3		10
	ルスツ			1		2		3
	札幌市					3		3
	深川市					1		1
	洞爺湖			1	2	2		5
	特急まりも					1		1
	美瑛町			1		1		2
	富良野					2	1	3
	北湯沢温泉					1		1
小計	2	0	8	3	16	1	30	
関東・富士・伊豆	千葉県	1	2	2	4	3	6	18
	成田					1		1
	船橋市			1			1	2
	舞浜	1	1	3	1	27	10	43
	幕張			3			2	5
	館山市		1					1
	潮来					1		1
	山中湖			7	4	1	3	15
	河口湖	1	3	15	6	6	5	36
	秩父市						1	1
	東京	45	35	4	9	55	77	225
	横浜市	1		1	6	3	6	17
	富士			1				1
	富津市		1					1
	伊豆				3			3
	妻良			1				1
木更津市						1	1	
(空白)		2	1				3	
小計	1	3	7	6	3	7	27	
北陸・信州・信越	郡上高原			3				3
	高山市			2				2
	志賀高原	12		3	2	14		31
	上高地			1				1
	乗鞍高原			9				9
	新潟					1		1
	丹生川			1				1
	昼神温泉			3		1		4
	長野県	6	1	5		3	1	16
	裾池高原			2				2
	南砺市	1						1
	白禰湖	2		2				4
	白馬	7	1	20				28
	斑尾高原			3	1			4
	飯田市			17				17
	民宿(信州)			1				1
	野沢			1				1
	立山			1		1		2
	(空白)					1		1
	小計	28	2	74	3	21	1	129
中国・四国	隠岐			1				1
	萩市			1				1
	岡山白石島			1				1
	宮島		1					1
	広島市	1		2				3
	大久野島			1				1
	高知市			2				2
	四万十市			1				1
小計	1	1	9	0	0	0	11	
九州	福岡市		1			1		2
	宍岐		1	3	2			6
	嬉野温泉				1			1
	川上峡					1		1
	唐津				1			1
	長崎県		1	2				3
	福江				1			1
	ハウステンボス					2		2
	松浦					3		3
	長崎市	7	18	31	3	29	3	91
	五島市			2				2
	佐世保					5		5
	天草					1		1
	島原市					1		1
	雲仙温泉			1		1		2
	阿蘇					2		2
	阿蘇民泊					1		1
	住吉浜			1				1
	安心院					1		1
	熊本			1		1		2
水俣市		1					1	
指宿					3		3	
鹿児島市			1				1	
(空白)		1					1	
小計	7	23	42	8	52	3	135	
沖縄	伊計島			2				2
	伊江島				1	3		4
	沖縄県		1	8	5	3	1	18
	恩納村	1	3	38	4	25	2	73
	久米島			1				1
	今帰仁			1	1	1		3
	佐敷町			10		1		11
	座間味島					1		1
	石川					1		1
	知念村				1			1
	東村(民泊)			1				1
	読谷村				10	4		14
	那覇市	5	10	40	15	25	4	99
	南城市					1		1
	浜比嘉			1				1
	本部市		1	8	1	5		15
	名護市	1	2	7	1	4		15
	(空白)			4	1	1		6
小計	7	17	121	40	75	7	267	
海外	1							1
その他	流業			1				1
	マキノ町			1				1
	白浜町		1					1
	勝浦温泉			3				3
	奄美大島			1				1
小計	0	1	5	0	0	0	7	
総計		47	47	266	60	167	19	607

1-(6) 宿泊地について(2泊目)

(単位:校数)

方面	2泊目	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
北海道・東北	ニセコ			4		5		9
	ルスツ			1	1	2		4
	阿寒湖					1		1
	倶知安					1		1
	札幌市				1	1	1	3
	赤井川	1						1
	大沼温泉				1			1
	定山溪	1				1		2
	函館					1		1
	美瑛町			1		1		2
	富良野					1		1
北広島市					1		1	
余市郡			2				2	
留寿都					1		1	
小計		2	0	8	3	16	1	30
関東・富士・伊豆	千葉県	1	3	5	5	3	10	27
	成田					1		1
	船橋市			1	1		1	3
	舞浜	4	7	11	7	15	5	49
	幕張		2	7	2		1	12
	館山市		5					5
	群馬県		1					1
	山中湖		2	2	1	1		6
	山梨県		1			1	2	5
	河口湖			6		9	12	27
	東京	42	27	2	8	65	73	217
	横浜市	2			2	5	2	11
	箱根							1
伊豆			2					
富士吉田							1	
(空白)			2	3				5
小計		49	52	39	27	100	108	371
北陸・信州・信越	郡上高原			3				3
	高山市			4		1		5
	志賀高原	12		3	2	14		31
	上高地					1		2
	乗鞍高原			8				8
	新潟					1		1
	屋神温泉			5				5
	長野県	6	1	7		3	1	18
	梅池高原			2				2
	南砺市	1						1
	白樺湖	2		2				4
	白馬	7	1	21				29
	斑尾高原			3	1			4
	飯田市			14				14
	(空白)			1		1		2
小計		28	2	74	3	21	1	129
中国・四国	萩	1						1
	隠岐			1				1
	岡山白石島			1				1
	広島市			2				2
	高知・大月町			1				1
	高知市			1				1
	今治			1				1
	四万十市			1				1
小計		1	0	8	0	0	0	9
九州	福岡市	1	4	2		1		8
	北九州市		3	9		6		18
	彦岐		3	4	3			10
	長崎県		2	2			1	5
	長崎市	4	2	6	1	19	1	33
	松浦市		5	5	2	2		14
	佐世保市			3		8	1	12
	ハウステンボス					1		1
	雲仙温泉			1	1	4		6
	島原市	1						1
	五島市			2				2
	福江				1			1
	御所浦町		2					2
	阿蘇			2		5		7
	熊本県		2	2		3		7
	熊本市			2				2
	水俣市					1		1
	佐賀市			1				1
	嬉野温泉					2		2
武雄温泉	1						1	
住吉浜			1				1	
鹿児島市			1				1	
(空白)			1				1	
小計		7	24	43	8	52	3	137
沖縄	オクマ			1				1
	伊計島			2				2
	伊江島		2	1	1			4
	沖縄		1	8	5	5	1	20
	恩納村	3	9	58	10	31	1	112
	宜野湾市						1	1
	久米島			1				1
	国頭村			1		1		2
	今帰仁			1	1	2		4
	佐敷町			2				2
	座間味村			2				2
	石川					1	1	2
	知念村			2	1			3
	読谷村	1	3	1	15	3	1	24
	那覇市	2	1	10		24	2	39
	本部市		1	13	4	3		21
	名護市	1		13	2	4		20
(空白)			5	1	1		7	
小計		7	17	121	40	75	7	267
海外	ケアンズ	1						1
その他	流業			1				1
	勝浦温泉			3				3
	白浜町		1					1
	流業			1				1
	奄美大島			1				1
(空白)							1	
小計		0	1	6	0	0	0	7
総計		95	96	299	81	264	120	955

## 2. 主要交通機関について

(1) 近修委の集約修学旅行列車を利用

(2) 近修委の集約以外の方法

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(1) 近修委の集約列車利用	17		14	3	93	67	194
(2) 集約以外	78	96	285	78	171	53	761
総計	95	96	299	81	264	120	955

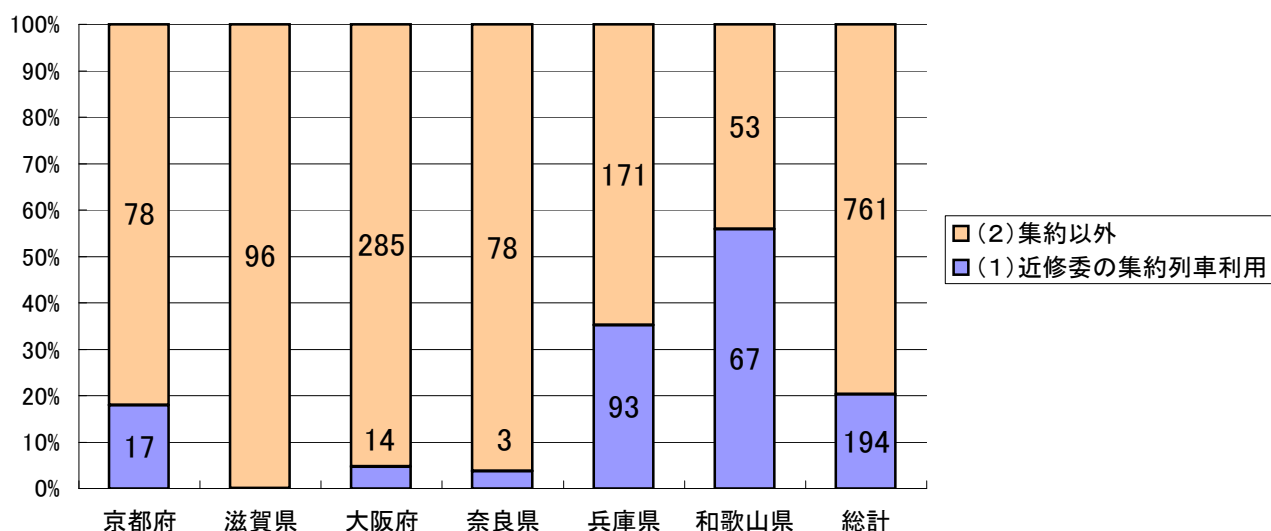
・集約輸送を実施する割合は20%程度で昨年と同じとなっています。

集約以外利用交通機関

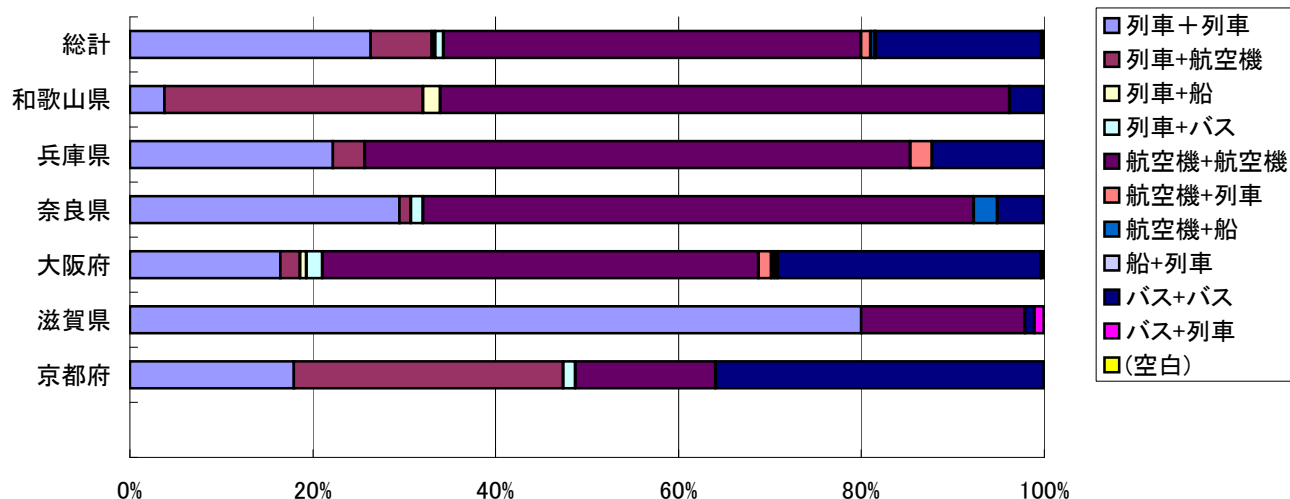
(単位:校数)

往路・復路	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
列車+列車	14	76	47	23	38	2	200
列車+航空機	23		6	1	6	15	51
列車+船			2			1	3
列車+バス	1		5	1			7
航空機+航空機	12	17	136	47	102	33	347
航空機+列車			4		4		8
航空機+船			1	2			3
船+列車			1				1
バス+バス	28	1	82	4	21	2	138
バス+列車		1					1
(空白)			1				1
総計	78	95	285	78	171	53	760

主要交通機関について(県別)



集約以外の利用交通機関

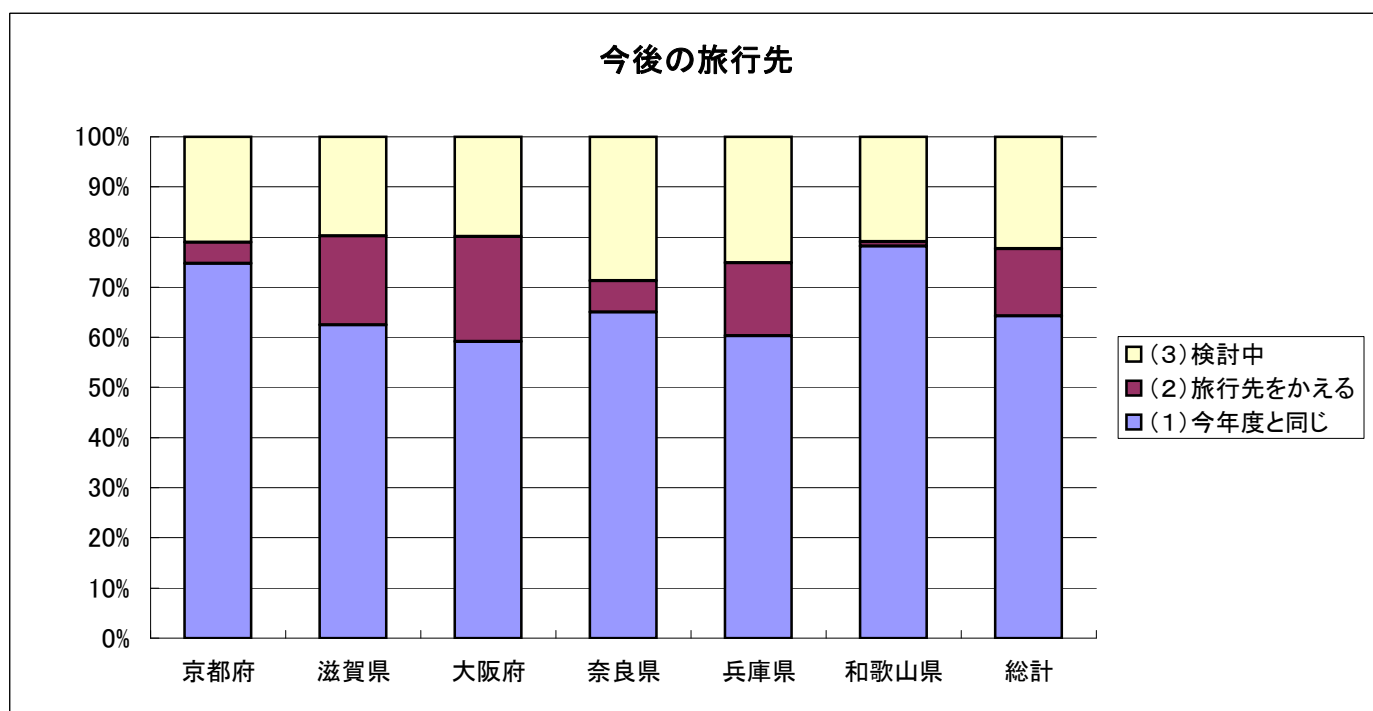




### 3. 今後(数年内)の旅行先についてお聞かせください。

(単位:校数)

	方面	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(1)今年度と同じ		71	60	175	52	158	93	609
(2)旅行先を変える	2年後隠岐			1				1
	2年後沖縄			1				1
	年度により異なる			1				1
	北海道			6		5		11
	関東			2		3		5
	岐阜			1				1
	信州		1	6				7
	信州・四国			1				1
	長野県	1		3		3		7
	蓼科方面			1				1
	東海		1					1
	東京		1	2				3
	徳島		1					1
	白樺湖			1				1
	白馬・上高地方面			1				1
	斑尾高原			1				1
	飯田			1				1
	福井県			1				1
	隠岐			3				3
	四国			1				1
	九州			1	2		11	14
	壱岐			1				1
	長崎・熊本				1			1
	長崎・松浦				1			1
	長崎・東京				1			1
	長崎県			1	6		2	9
鹿児島県					1		1	
奄美大島				2			2	
沖縄			7	1		8	16	
沖縄県		3		11	3	2	19	
未定			2	4	1	4	1	12
(2)小計		4	17	62	5	38	1	127
(3)検討中		20	19	59	23	66	25	212
(空白)				3	1	2	1	7
総計		95	96	299	81	264	120	955



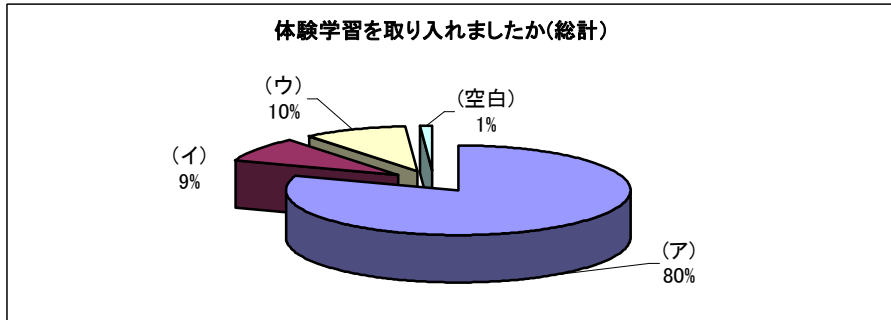
・予定先は、沖縄が最も多く(昨年35校)、九州(昨年15校)、北海道(昨年13校)で昨年とほぼ同数です。

#### 4. 平成18年度の修学旅行に体験学習をとりいれましたか。

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(ア)取り入れた	76	89	285	62	206	49	767
(イ)取り入れなかった	8	2	4	13	33	25	85
(ウ)今後も取り入れない	10	5	5	5	23	44	92
(空白)	1		5	1	2	2	11
<b>総計</b>	<b>95</b>	<b>96</b>	<b>299</b>	<b>81</b>	<b>264</b>	<b>120</b>	<b>955</b>

・全国調査では、(ア)77.9%、(イ)11%、(ウ)11.1%となっています。

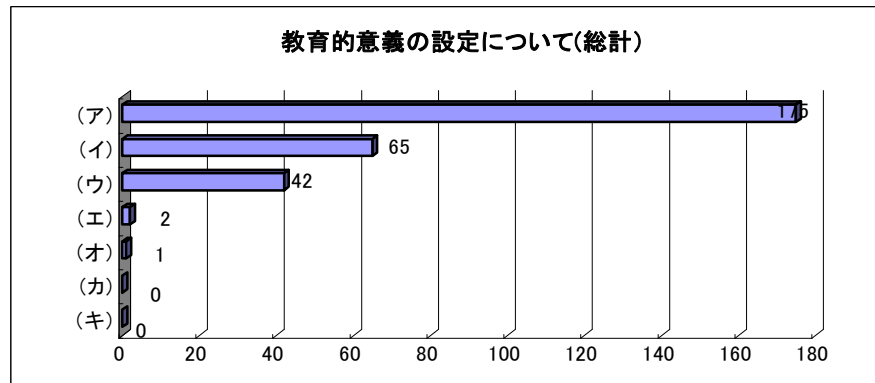


#### 5. その時、あなたの学校では教育的意義をどのように設定されていますか。

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(ア)学習への関心・意欲を高める	23	19	56	15	42	20	175
(イ)学習の満足感や成就感を体得させる。	3	10	23	10	15	4	65
(ウ)一人一人に主体的・追求的な活動をさせる。	5	2	13	3	14	5	42
(エ)自ら課題を出し解決する能力を養う。		1	1				2
(オ)知識を統合し、生きて働く知恵を獲得させる。					1		1
(カ)自らの考えを積極的に表現させる。							0
(キ)その他							0
<b>総計</b>	<b>31</b>	<b>32</b>	<b>93</b>	<b>28</b>	<b>72</b>	<b>29</b>	<b>285</b>

・全国調査では、多い順に(ウ)27%、(イ)24%、(ア)20%となっています。

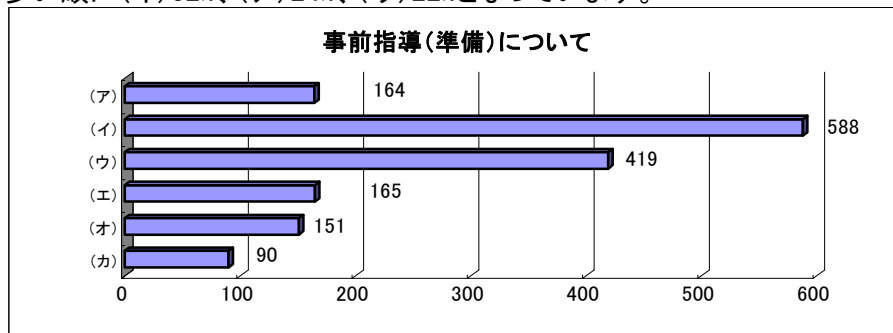


#### 6. 体験学習における事前指導(準備)をどのようにされましたか。(されますか)

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(ア)ねらいを明確にし、ねらいに応じた体験の質の向上を図る。	40	49	146	41	108	36	420
(イ)体験場所・内容の事前調査を行う。	58	70	204	51	159	46	588
(ウ)活動の展開に必要な資料を十分用意する。	40	50	142	41	113	33	419
(エ)修学旅行の体験と日常の学校生活との継続性を図る。	23	8	60	11	53	10	165
(オ)実りある体験活動にするために教師の指導・助言を充実させる。	17	14	51	16	40	13	151
(カ)その他	8	4	4	14	35	25	90
<b>総計</b>	<b>186</b>	<b>195</b>	<b>607</b>	<b>174</b>	<b>508</b>	<b>163</b>	<b>1,833</b>

・全国調査では、多い順に(イ)32%、(ア)24%、(ウ)22%となっています。

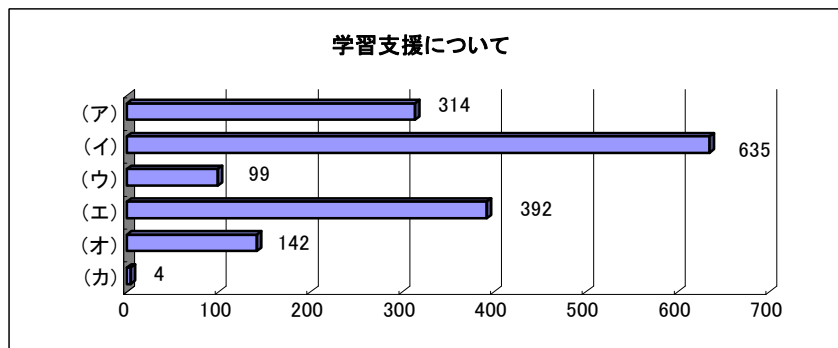


## 7. 体験学習実施にあたって、特に留意したことは(したいことは)何ですか。

### (1) 学習支援

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(ア)学習手段の確認	40	40	79	27	91	37	314
(イ)集団・個人相互の協力態勢	61	63	222	54	185	50	635
(ウ)意欲を示さない生徒の指導	14	13	39	5	22	6	99
(エ)体験活動中の礼儀・作法	41	43	126	42	108	32	392
(オ)教師のきめ細やかな巡回指導	8	12	63	20	35	4	142
(カ)その他	0	1	1	0	1	1	4
<b>総計</b>	<b>164</b>	<b>172</b>	<b>530</b>	<b>148</b>	<b>442</b>	<b>130</b>	<b>1,586</b>

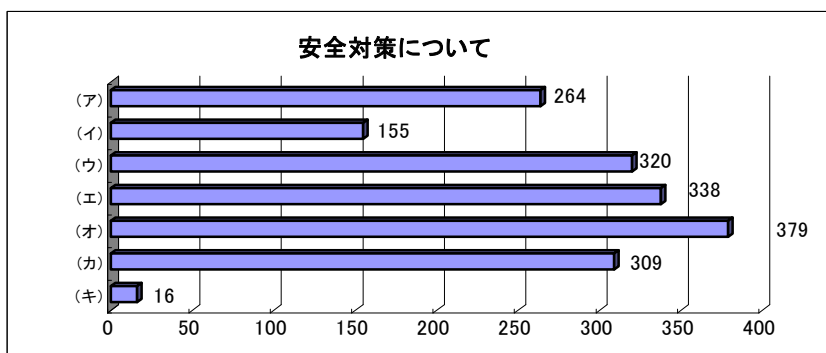


・全国調査では、多い順に  
(イ)33%、(エ)30%、(ア)22%  
となっています。

### (2) 安全対策

(単位:校数)

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(ア)管理マニュアルの策定	34	31	77	20	75	27	264
(イ)電話連絡網の作成	10	16	51	11	54	13	155
(ウ)携帯電話の活用	37	47	78	24	99	35	320
(エ)体験中の負傷・病気	39	26	126	37	89	21	338
(オ)安心できる業者の選定	36	42	155	35	93	18	379
(カ)傷害保険への加入	24	36	129	39	63	18	309
(キ)その他	0	4	4	1	5	2	16
<b>総計</b>	<b>180</b>	<b>202</b>	<b>620</b>	<b>167</b>	<b>478</b>	<b>134</b>	<b>1,781</b>

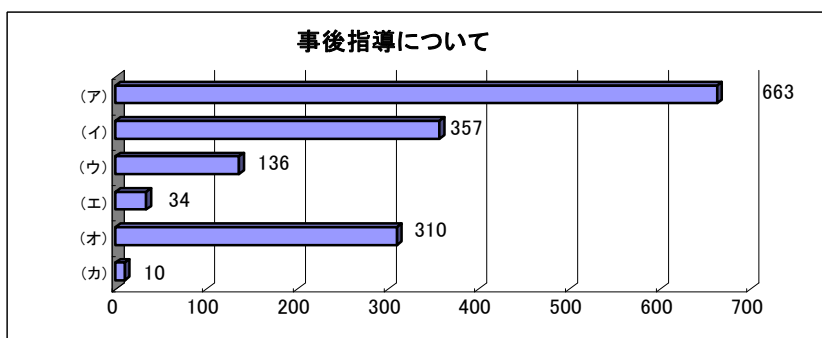


・全国調査では、多い順に  
(オ)22.5%、(ウ)19%、(カ)17.8%  
となっています。

## 8. 事後指導は、どのようにされましたか。(されますか)

(単位:校数)

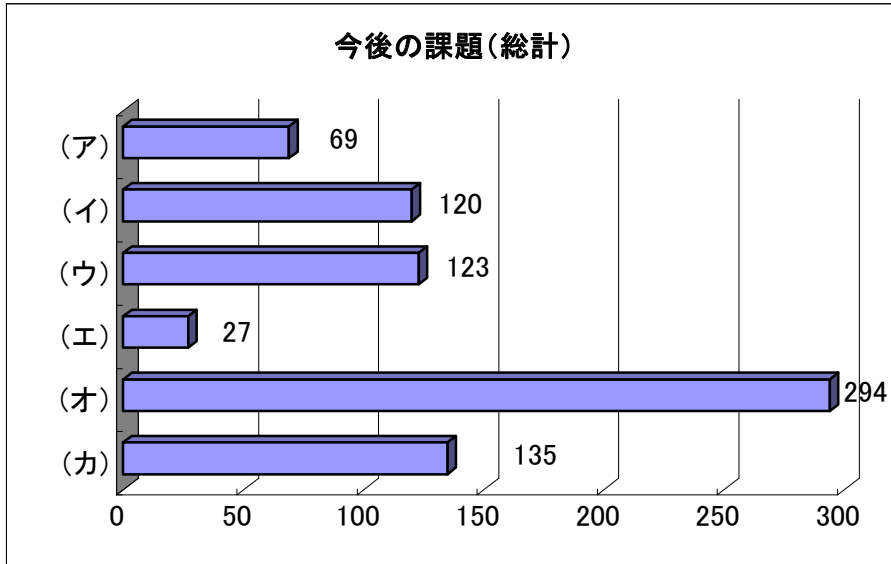
	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(ア)体験した内容をまとめる	63	76	218	61	191	54	663
(イ)発表する機会を作る	36	42	123	28	85	43	357
(ウ)集録を作成する	11	15	30	16	48	16	136
(エ)個々の評価カード等を作成する	3	6	13	1	9	2	34
(オ)今後の生活や学習指導に生かす。	44	20	112	28	82	24	310
(カ)その他	0	1	3	1	5	0	10
<b>総計</b>	<b>157</b>	<b>160</b>	<b>499</b>	<b>135</b>	<b>420</b>	<b>139</b>	<b>1,510</b>



・全国調査では、多い順に  
(ア)42%、(イ)24%、(オ)21%  
となっています。

## 9. 今後の課題は何ですか。

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	兵庫県	和歌山県	総計
(ア)ねらいが十分達成できなかった。	8	2	28	3	19	9	69
(イ)事前指導が不足した。	13	10	38	8	35	16	120
(ウ)時間。経費の割には内容が不十分であった。	8	14	51	12	30	8	123
(エ)安全対策が不十分であった。	6	1	8	1	9	2	27
(オ)個々への評価が不十分であった。	30	39	97	23	88	17	294
(カ)その他	10	17	50	14	38	6	135
<b>総計</b>	<b>75</b>	<b>83</b>	<b>272</b>	<b>61</b>	<b>219</b>	<b>58</b>	<b>768</b>



・全国調査では、多い順に  
(オ)40%、(イ)26%、(エ)14%  
となっています。

## 体験学習に関するご意見

(できるだけ多くのご意見を読んで頂くために忠実に掲載致しましたが、いくつかのご意見を一つにまとめた場合や一部割愛させて頂いたご意見もあります。以下修学旅行に関するご意見も同じ)

- 校区内では実施困難な体験を通して、生徒が学習の達成感や主体的に活動することを学習できたと考えている。今後も体験学習を様々な機会に取り入れながら、自己発見や自立性を養えればと考えます。(長野県)
- 生徒が希望したもから複数の体験学習を実施したが、内容に差があり、深く体験できたものと表面的になったものがあった。費用の面でも差があり調整に苦労した。旅行業者・受け入れ先・学校の三者で充実したものとなるよう努力すべきと考える。(長野県)
- 事前調査や準備に時間がかかる。しかし、自分たちで考え、行動し、発表することで大きな成果があった。生徒の自主性は育ったように思う。(長野県)
- ホームステイの農家に生徒の状況を細かく伝えられていなかったため、ステイ先に迷惑をかけたが生徒は満足している。(長野県)
- スポーツ・農業体験を長い間受け入れてきた実績のある場所・業者が限られているので、行き先が重なってしまう。(長野県)
- ラフティングを毎年実施しているが、好評である。(長野県)
- 大きな集団での生徒への指示・指導が通りにくくなっている。小さな集団で多様な体験プログラムを準備することで生徒に積極性ややる気を引き出せると考える。(長野県)
- 冬のスポーツを中心にした体験であったが、今後は狙いを明確にした体験を時間・経費の面も考えながら研究していきたい。(長野県)
- 目的を明確にして事前学習を充分に行った。天候の関係で予備のプログラムが必要。(長野県)
- 十分な事前学習をしたこと、現地のスタッフの対応がとてもよかったことから、生徒は感動と驚きで生き生きしていた。費用がもう少し安くなればと願う。(沖縄県)
- 体験とは言っても80%は学校が準備しているので、本当に体験学習と言えるだろうか。絵でたとえるなら「ぬりえ」をさせているようなものである。今後は生徒の主体的な活動ができる体験学習が必要であると考えられる。(千葉県)
- 生徒が体験学習に対して興味を持ち積極的に取り組むためにも事前学習がとても大切だと考える。(沖縄県)
- 日常生活で体験できることが少なくなっているため、よい体験を多くさせたい。(山梨県・千葉県)
- 本校の修学旅行は”自分を語る会”と”体験学習”です。当分変更はしません。(和歌山県)
- 全員が同じ体験をすることもよいが、全体の中に個人の興味によって違うプログラムを選ばせ、より楽しい体験学習をさせることも意義がある。(長野県)
- 沖縄での体験は平和学習・自然体験共に貴重なものであると考える。(沖縄県)
- 沖縄でのマリン体験は天候に恵まれたが来年はどうか。生徒は平素できないことを体験することは興味・関心から見れば意義あることであるが楽しただけに終わってしまっている。平素の学習と繋がりのあるものが企画できないのか教師側の課題でもある。(沖縄県)
- 目的と内容について、教師間の意思を統一長い期間をかけての取り組みが必要である。(沖縄県)
- 自然体験や生活体験をさせるだけに終わっている。(沖縄県)
- 水に接する体験学習は、安全面に十分な配慮が必要。(山梨県・千葉県)
- 沖縄を選んだ理由は平和学習・自然体験であり、現地ならではの充実感を持たすことができた。もちろん周知な事前準備があつての成果と考えている。(沖縄県)
- 体験は生徒の最も満足度の高いプログラムである。特に地元の人に接して得るものが大きい。(沖縄県)
- 行き先の特色を更に生かした体験にするよう努力する。(長崎県)
- 総合的な学習との連携を大切に取組んでいる。(特に平和学習に重点を置いて)しかし、ガマの見学で他校との接触があること、希望する場所が確保できないなど課題もある。(沖縄県)
- 安全確保には万全を期し、体験学習がマイナスにならないよう留意しなければならない。(長野県)
- 班単位で実施したが、班のメンバーによって学習の成果に差があった。今後は学習意欲をどう高めるかが課題である。(長崎県)
- 本校にとって体験学習は不可欠であるが、更なる内容の充実と経費の問題を解決したい。(長野県)
- 頭の中だけで考えるのではなく、現実や実物に触れることにより感性を磨くことができる。(沖縄県)
- 「生きる力」を育成するためにも様々な体験学習を取り入れた修学旅行であることが大切。事前と事後の学習と合わせて一つの体系になることが重要である。(岡山県)
- 体験学習を経験することにより、身に付く効果は大きい。その体験の積み重ねが学習意欲・実行力の向上につながる。(長野県)
- 疑似体験が拡大する中で、実体験は貴重な学習の時間だと思ふ。(高知県)
- 40家庭にお願いして農業体験をしたが、各農家の対応に少し違い(差)あった。(長野県)
- 体験学習は適切な事前指導がカギとなる。生徒の興味・関心をどのようにして体験に結びつけるかがポイントとなる。(長野県)
- 教育的意義が大きいと考えるファームステイを実施してきたが、受け入れ農家の規範意識の希薄さから子供

- たちを裏切る結果になったことが非常残念である。(長野県)
- 生徒の発達段階や興味・関心を見据えて、生徒が自主的・自発的に学習に取り組み、互いの向上を目指す内容・課題を設定していくことに研究を深めたい。(長崎県)
  - 生徒へのしっかりした意識付けを行う。事前学習・実施・評価・旅行以後の学習活動にどう生かすか。単なる思い出体験にしないためにも。(北海道)
  - ファームステイを取り入れているため、農家と家族的な繋がりが強くなった。農業に対する理解が高められた。(長野県)
  - 充実した体験には費用が嵩み、保護者負担を考えれば再考せざるを得ない。(沖縄県)
  - 地元では体験できない漁業体験をした。内容を更に充実させることができれば、更に満足感や成就感を与えることができる。(千葉県・静岡県)
  - 農家に滞在し、寝食を共にすることにより、人の温かさを感じ、生徒も満足している。農業体験によって仕事する苦勞を知り、普段は見えない農家の作業を知り、食べ物を大切に作る気持ちが湧いてきている。キャリア教育の一環として農業体験を取り入れた。(長野県)
  - 体験に十分な時間がとれず、少し経験した程度になってしまう。(沖縄県)
  - 体験学習を通して「生きる力」を身につけさせ、「自分の生き方を考え、夢を語る生徒」を育成したい。(北海道)
  - 費用が少しずつ値上がりしているようにも感じる。語り部の方も大変だとは思いますがもう少し全体の費用を安くできないものか。(沖縄県)
  - 指導は大変であるが、教育的意義は高いので実施していきたいと考える。(沖縄県)
  - 事前指導のための情報収集に限界を感じている。(沖縄県)
  - 平和学習と自然体験を目的として実施したが、天候に恵まれず自然体験ができなかった。今後費用も高くなることから活動内容の検討が必要である。(沖縄県)
  - 2年目の取り組みであるが、有意義な内容として保護者の評価も高い。数年は充実させながら進めたい。2年生時の食料体験学習とも関連させながら。(長崎県)
  - 伊江村で20数軒に分かれて民泊で体験活動をした。それぞれの民家によって体験内容に変化があり、意欲的に体験と触れ合いができた。(沖縄県)
  - 体験学習は大切だと考えるが、内容が旅行業者任せであったり、学校側のイメージと大きくずれていたりする場合がある。体験メニューの情報をもっと丁寧に調べる必要がある。(沖縄県)
  - 子供たちの生活体験が偏っているため、学校での体験学習が自信につながり本校では効果をあげている。総合学習のまとめとして捉えている。(長野県)
  - できるだけ多くの体験活動をしたいが費用が高い。教育活動であるので何か方策があればと思う。(和歌山県)
  - 「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、体験したことは理解する。」と言われている。体験の機会が少ない現代において大切な学習であると思う。体験により学んだことが、生活やその後の学習に生きて働くような力をつけさせたい。(沖縄県)
  - 旅行業者が体験学習を用意していて、それはよくできているが費用が嵩む。学校の特色を出したいが、どれを選んで同じようになる。学校の意図と違うことがある。効果も貧弱なものがある。(沖縄県)
  - 体験学習はともすれば楽しかったで終わりがちであるが、民泊などを通してその地の人々の生活や文化・伝統に触れさせることにより、生きていく上での知恵や生き方について考えさせることが大切。(沖縄県)
  - 体験を通して家族以外の人々と接することは中学生にとって貴重な経験になると確信する。言葉遣いや応対、体験を通じての心の触れ合いは今後の糧になると思う。(岐阜県)
  - 「ほんまもん体験」という名称で4～6名を1つのグループとして宿泊体験をしている。内容の充実度は高いが安全面での課題がある。(長崎県)
  - 体験学習をしたいが、300名近い生徒が体験できる所が少ない。(長崎県)
  - 体験学習が単なる経験に終わることがないよう、狙いを明確にし、事前・事後指導が計画的になされるならば、生徒の主體的な取り組みに繋がり、教育的効果は高い。修学旅行全体のコンセプトを明確にし、体験学習が3年間の教育課程の中で位置づけられたものでなければ経験主義に過ぎず、効果は期待できない。(長崎県)
  - 体験学習を実施する際の監督責任は誰にあるのか、明確にすべきである。マリンスポーツを実施するとき、旅行業者かインストラクターか学校か。法的な契約書が必要であると考え。(沖縄県)
  - いい体験は数多く準備されているが、費用が嵩むため思うように活用できない。(沖縄県)
  - 昔と今とでは修学旅行の目的が変化している。現在の修学旅行の目的は、普段生活している家庭・学校という場から離れ、宿泊・行動などで共に集団行動・生活をする中で、子供たちに何を勉強してもらえるかと言う点にかかっている。そう言う意味では体験学習は非常に効果的である。(長野県)
  - 前項で「今後も取り入れない」と回答したが、学年経営において必要と感ずることがあれば検討する用意はしている。3年間を見通しての計画の中で考えたい。(千葉県・山梨県)
  - それぞれの地域の特色(産業・文化)に触れるよい機会である。(沖縄県)
  - 日本において唯一地上戦が行われた沖縄で、体験的平和学習に取り組むことは、生徒たちの平和教育・国際理解教育を深める上において、非常に重要である。(沖縄県)
  - 生徒たちが体験学習で、何を学び、何に感動し、何を考えるかを想定して事前指導がなされるとよい。また、下見もこの点に留意してされるべきだと考える。(千葉県)

- 体験場所・内容の事前調査が大変難しい。安全の確保が課題。(山梨県・千葉県)
- 下見の際、体験学習の内容を聞くだけで済ませたので、内容を充分理解していなかった。実際の体験学習の時、内容の乏しさに気付いた。また体験の費用も高い感じがした。(静岡県)
- 体験学習は自ら関心のあるものを選べるので、積極的に取り組み、よかった。班単位の行動であるので、小集団の協力・友情を深めるのによいが、学級として行動する機会が少ないので、学級集団での取り組みをどうすべきか検討中。(山梨県)
- 都内での職業体験学習(生徒の希望により、学校が予約し訪問)も時間的な問題や内容などから見直しの必要性を感じている。(東京都)
- 旅行者は安全対策にはきっちりした対応ができるような体制が整っていると感じた。(沖縄県)
- 元気に明るく、友達と仲良く体験学習をさせたい。全員参加を目指したい。(長野県)
- 体験の個人差が広がる中、教育課程の中で共通に学習する体験学習は大切だと思う。ただ、体験を豊かな心に結びつける心の教育のあり方にもっと力をいれなければならない。(長野県)
- 自然体験学習としてスキー実習を行っている。4日間で生徒は見事に技量が上達する。(長野県)
- 現在スキー体験学習を実施しているが、「総合的な学習の時間」とのかかわりで、今後、内容を検討する必要がある。(長野県)
- スキー実習を続けて来たが、社会体験的なものを導入する必要があると考えている。ボランティア・農業体験も検討中。(長野県)
- インストラクターの質の向上・新たな体験活動の開発を委員会として取り組んでどうか。(長野県)
- 旅行者が計画・立案した体験プログラムには「様々な体験活動を通じて豊かな心や困難に耐え抜く逞しい生徒を育てる。」には不十分な内容のものも見受けられる。(長野県)
- 都内での班別研修を実施したが、事前の調査・計画通りには進まないことも生徒にはよい体験となった。(東京都)
- 修学旅行でなければできない体験学習を選びたい。(東京都)
- 旅行先での時間・安全面の制約・課題及び学年の状況・修学旅行のあり方など考えれば多くは望めない。(東京都)
- 広く・浅くの体験になってしまう傾向にあるため、深く追求できる工夫や改善が必要。進路指導・キャリア教育の点で成果を上げることができた。(東京都)
- 都内は伝統芸術・大学・国際理解等体験の素材が豊富である。(東京都)
- 東京大学で講義を受けたり、ディスカッションを外国の研究員の方々とできたことは有意義であった。(東京都)
- 沖縄での体験は親切で丁寧であるが、費用が高いという感じがする。(沖縄県)
- 旅行先の独特の文化や慣習を体験することはとてもよいことである。最終的には「自分」や「ふるさと」を考えることになる。(沖縄県)
- 本年度から、班別体験学習をやめ、クラス別に変更した。安全面を優先した結果である。(東京都)
- 都内での体験活動は安全面の心配があるため、当地方ではやめる学校も出ている。(東京都)
- させたいが、今の都内の状況では安全面に不安があるため、今後も実施は困難。(東京都)
- 安全面や時間的な問題がなければ実施を検討する。(今後も取り入れない学校)(東京都)
- 学習内容の充実を図る上で、できるだけ多く情報がほしい。(東京都)
- 昨今の総合的な学習の時間やキャリア教育の方向性を考えると今後も必要な取り組みと考えるが、危機管理の課題をどうクリアすすかが問題。地元でする方が安全。(東京都)
- 夏休みに時間をかけて取り組むのがよい。(東京都)
- 体験学習を導入するため、場所・施設・体験内容・体験後の評価等の資料収集。(東京都)
- 都内での体験を行っているが、内容の娯楽化が心配される。目的の明確化必要。(東京都)
- クラス毎に体験場所決めて実施。時間は短かったが、国立印刷所など普段体験できないような場所での体験は貴重。(東京都)
- 社会のルールなど多くのことを学ぶ機会を作ることができた。社会人になっても役立つと思う。(東京都)
- ボランティアガイドさんによる長崎平和学習や被爆体験講話、平和集会などを長崎で行うことができた。今後も事前学習の充実を図り、継続したい。(長崎県)
- 班別行動をメインとしているので、体験学習についてはまだ検討していない。(東京都)
- まだ実施したことがないので、よくわからないが、事前指導を十分行わなければならない、早い時期からの取り組みが必要と思う。(本年度は実施しなかったが、今後取り入れたい学校の意見)
- 現地ならではの体験に生徒は喜びと感動を感じていたが、地元の空港ではなくバスをチャーターして遠くまで行くことになった。多くのことに弊害が出ており、一考を要する。(沖縄県)
- 時間や費用がかかるが、実際に体験すれば大きな成果が得られる。物を作るのはこんなにしんどいことなのか、こうして物が作られるのか等感動することが多い。(東京都)
- 時間の制約から体験の内容にも制約があったが、費用が多額にならないように配慮した。(沖縄県)
- 短い日程の中で、できるだけ多くの場所を見学させたいので、体験学習はできにくい。(山梨県・千葉県)
- 観光だけでなく、自分たちで決めた目的地に自分たちの力で到着し、人と触れ合うことは・体験活動することは大きな意義があると考えている。ただ事前指導から実施、まとめまで多くの時間を要することと、その時間に合

- う効果があるのかについては吟味する必要がある。(東京都・千葉県)
- 体験学習をテーマに修学旅行を計画した訳ではなく、決定されている旅行先で、いかに体験学習を取り入れるを考え、実施しているので、無理が生じる。(山梨県・東京都)
- 都内で班別自主行動を実施した。事前に資料やインターネットを利用してコースを考えさせたが、実際にはテレビやニュース等で既知の場所や買い物が多かった。(千葉県・東京都)
- 一年時から将来を見つめていく(進路指導)ためのプログラムの一環として、首都の見聞・職場訪問の体験学習を設定したため有意義であった。(千葉県・山梨県)
- “生徒の安全”が一番気がかりです。“もし～したら”との不安がつきまといますが、体験学習によって得られるものは大きく、今後も続けたい。(東京都・千葉県)
- 体験に縛られすぎるのはよくない。(時間・費用)(東京都)
- 実施していないので、実践例を知りたい。(東京都)
- 240名が、都内班別行動を初めて実施した。不安な点多かったが、都内の雰囲気を感じることができた。ディズニーランドより印象深いと答える生徒も少なくない。(東京都)
- 小規模校。教育課程の中で2学期(一昨年5日のキャリア教育指定。本年度3日間学校独自に実施)を行っている。学校独自の総合的な学習と関連させ、自然・福祉等を体験させているので、修学旅行では別の学びを取り入れたい。(東京都)
- 体感学習を取り入れることは行き先の特色などを学べてよいと思うが、計画や準備に工夫がいり、難点である。(今後も取り入れない)(東京都)
- 生徒の興味・関心と時間・経費をどう調整するか。一人一人の生徒の多様な要求をどう満足させていくか、解決すべきことが多くある。(今後取り入れたい。)(神奈川県)
- 生徒の実態に応じた活動内容を充分検討した上で実施することが大切。修学旅行は絶好の機会。体験学習を実施しない修学旅行は考えられない。(東京都)
- 特に修学旅行での体験の必要性を感じていません。(東京都・山梨県)
- 実施するための多くの資料・情報を手に入れる努力をする。(今後取り組みたい。)(山梨県・千葉県)
- 体験学習を取り入れることが目的になるのではなく、教育目標・生徒に付けたい力・体験させたい内容と生徒・保護者のニーズとの調整の上、効果的な物を実施することが目的と思う。そこが難しいので本校ではまだ検討中です。(今後も取り入れない)(東京都・神奈川県)
- 都内の班別自主行動を実施したが、進路・環境・平和・産業・政治等選択肢も多く、意欲的に取り組むことができた。また、企業・大学の受け入れも多かった。ユニセフハウス・JICAでの体験活動は、世界の子供たちの実態を肌で感じることができた。(東京都)
- 東京周辺で体験学習を取り入れているが、内容・時間等十分な活動ができていないのが実情。(東京都)
- 業者が発掘してくれるが、時間の制約もあり内容が薄くなる。遊び体験にならない配慮必要。(東京都)
- 学校の主体性・目的意識を明確にした上で、安全第一にした活動・費用少なくて済むような取り組みが必要ではないか。(東京都・千葉県)
- 市の中心にある学校として、長浜市の観光アピールを東京で実践し、地域に貢献する体験を試みた。新しい挑戦が今後必要と考える。(東京都)
- 流行も大切であるが、生徒指導上の課題もあり現在は考えていない。(今後もしない。)(東京都・千葉県)
- 様々な工夫をすることはできるが、準備の時間と費用の面で思うように取り組めない。また、教師の知識だけでは不十分なので、現地と打ち合わせをしたいがこの点も難しい。(東京都・千葉県)
- 異なる文化・風俗・風土をただ一回切りでも体験することは優れた成果が見られないものの、長い人生のどこかで生かされるだろう。直に本物を見る身体を使って特異体験をする。何でもよいと思っている。(長崎県)
- 環境問題が叫ばれる一方で、人々の生活は自然との繋がりが希薄になっている。それ故、自然の中でゆったりと活動させ、普段とは違った角度から自然と向け合わせることで、次代を担う生徒たちにとって大切であると考える。(山梨県・千葉県)
- 可能限り安全対策を行うが、東京のような都市では、様々な可能性があり学習効果の割りにリスクがまってきたと考えている。(東京都・千葉県)
- 班別体験を行う場合安全対策のために携帯電話を持たせるが、校内での指導と矛盾する。(福岡県)
- 体験学習は常にうまくできることばかりでなく、失敗することによる習得もある。(福岡県・長崎県)
- 海に面しない県であるので、体験には海とかかわることを取り入れたい。(沖縄県)
- 小規模校であるため、特に問題がなければ前年度を踏襲している。よって学年・生徒の興味・関心を充分にみ取れていないかも知れない。(東京都)
- 体験学習には時間的に制約が多いし、経費もどれくらいのものかわからない。不安な面が多い。(神奈川県)
- 体験学習を取り入れることにより、生徒個々の優れた特性が見出されることや人と人との関係作りの難しさ、またすばらしさが体験できることなど、今日してでは経験できない学習が深められる。(沖縄県)



## 修学旅行に関するご意見

- 5月は沖縄への修学旅行が集中し、航空機の便が抽選となり、抽選が学校の希望の日ではなかったため、当初の計画とは違う日程になってしまった。急な日程変更で混乱した。(沖縄県)
- 旅費の削減により、遠距離(航空機利用を含む)方面の修学旅行は非常に困難になってくる。しかし、生徒には得難い経験だと思いつけている。(沖縄県)
- 事故なく帰ることが最優先で、できれば体験学習は避けたいところである。(山梨県・東京都)
- 飛行機利用でできれば海外への修学旅行ができるようにしてほしい。(沖縄県)
- 沖縄方面へは航空機の座席確保が難しいと聞いている。平和学習を考える上で学校の希望通り沖縄に行けるようになればと思う。(山梨県・千葉県)
- 安く行ける一般旅行と比較して修学旅行の費用が高いとの声が保護者に根強くある。(長崎県)
- 沖縄方面への修学旅行を4年間続けることを決定しているが、空の便の確保が難しい。また、来年度は全国学力テストと重なっており、変更も困難である。(沖縄県)
- 搭乗手続きが複雑であったが、生徒にはよい経験であった。(北海道)
- 座席確保が難しい航空機利用による修学旅行を考え直す時期に来ている。また、数校が同じ飛行機に乗り合わせるためトラブルが発生しやすく、航空機利用を見直さざるを得ない。(沖縄県)
- 航空機利用については、教育委員会からの指導で利用しにくくなっている。(千葉県・神奈川県)
- 数回のアンケートの後、航空機利用の修学旅行となったが、大きな不安がある。(近い将来沖縄県)(長崎県)
- 航空機の出発時刻決定が、出発2か月前であるので、予定が立てられない。また、当日にならないと座席が決まらないのも学校にとっては最大の不満である。(沖縄県)
- 3年間総合的な学習の時間で積み上げ、事前学習・準備をしてきたが、テーマパークでの活動に意義を求めるとはどうか。来年度以降方面を変えて活動する予定である。(山梨県・東京都)
- 各補助の限度内で修学旅行ができるように配慮している。(神奈川県・千葉県)
- 経費が高くつくため、参加が困難なこともあり大変気になります。(東京都)
- 少人数学校のため諸経費が割高になる。生徒一人当たり同額になればいいが。(沖縄県)
- 航空機は利用していないが、危機管理や安全対策が叫ばれている昨今移動手段や宿泊施設での安全については万全を期すことが求められている。(東京都・千葉県)
- 安全上の課題もあるが、直前まで航空機の座席がわからないのが、最大の課題。増便できないか。(沖縄県)
- 家庭等でも旅行が贅沢なものでなくなっており、海外まで行くようになってきた。修学旅行の意義や修学旅行の必要性について考える時期が来ている。(長野県)
- 航空機運賃が高すぎる。沖縄でのマリンスポーツ体験(インストラクター料金も含め)費用が高すぎる。(沖縄県)
- 現在の修学旅行は安全面でも経費の面でも課題が多すぎる。中学生の修学旅行らしくすべき。(長野県)
- 復路の航空機が雷雲のため遅れ、帰校が遅くなった。保護者には大変心配をかけたが、航空機利用には避けられない課題である。(沖縄県)
- 観光的な修学旅行は意味がなくなりつつある。(長野県)
- 往路と帰路の空港が違った。このようなことのないように願いたい。(沖縄県)
- すぐ近くの空港から出発できず時間・経費(かなり高額)の面で課題が大きかった。また、沖縄での活動時間が少なく沖縄に行くメリットが少なくなった。近くの空港を使えるように関係者は努力をすべき。こういう点で飛行機を使った修学旅行はよくない。また、キャンセル料も大変高い。航空機利用を変更せざるを得ない。(沖縄県)
- 行き先も日程も決まっているのに、一年前になっても航空機の便が決まらない。何とかならないものか。(初めて沖縄に行く学校)(広島県)
- 決まった日に、キャンセルのない学校行事の修学旅行であるのに、安くしないのが納得できない。保護者からの質問・意見がここに集中する。また、すぐ近くの空港から出発できるようにしてもらいたい。(沖縄県)
- 近くの空港が使えないため、遠くの空港までのバス代が嵩み、現地での体験学習を縮小した。料金が高くなることの保護者への説明もできない。(沖縄県)
- 本年、天候ではなく機体整備のため2時間遅れで出発した。当然現地での活動に大きな支障が出た。天候による遅れもあり、今後は見直す。(沖縄県)
- チャーター機で修学旅行に行く方法はないのか。近くの空港を利用するために。(北海道)
- 修学旅行費用の半分以上が航空機運賃である。バーゲン料金が出回っているのに修学旅行の運賃は高すぎる。学校の希望が反映されない決まり方には納得できない。(沖縄県)
- 航空運賃が高く、遠くの空港までのバス代が高つくので、来年度から新幹線利用に変更。(沖縄県)
- 学校が空港に近く利便性に優れているが、万一のことを考えると不安である。(北海道)
- 車いす利用に対する補助の拡大(航空機の座席)を願いたい。(東京都・千葉県)
- もっと早く航空機の決定ができないか。直前になって日程変更を余儀なくされたこともある。(沖縄県)
- 帰路の時刻が遅く、学校での解散がよる10時になる。(北海道)
- 希望する航空機がとれず、朝が早く帰りは遅い。(20時~22時)何とかならないものか。(沖縄県)

- 市内の別の学校と同一出発・帰着となり、また、駅構内での集合場所確保が難しく、課題も大きいため、今後は市内の学校が重なることだけは避けてほしい。(長崎県・熊本県)
- 見学する場所を課題に合わせて選ばせると気になるのは安全対策。交通機関などの連携で対応できるシステムがあると助かる。(東京都)
- 航空機利用は考えていない。そこまでの必要性も感じない。(東京都)
- 往復新幹線を利用したが、一般客と同車両となったため苦情が出た。生徒にとっては普段と同じと思っても修学旅行と言うことで気分が高まり、それが騒音と他の人は感じる。JRも考えてほしい。(東京都・千葉県)
- 日程の半分を平和学習に使ったが、生徒は充実した旅行と受け止めていた。(長崎県)
- 新幹線は一般客と混乗ではなく、以前のように専用列車にしてほしい。(東京都)
- 沖縄修学旅行を職員・保護者に提案したが、飛行機に乗れない生徒・事故・天候不順による足止め等、関東方面ではあまり考えたことがない課題が出てくる。平和の尊さ等を考える生徒を育てたいが。(東京都)
- 単なる観光旅行とはせず、生徒のものの見方や考え方を育てるようなプログラムを作りたい。行き先が先に先にあるのではなく、どのような力をつけたいのかをはっきりさせ、それにふさわしい行程を考える。(東京都)
- 訪問校が増えてきているので、沖縄へは大幅な増便を願いたい。(沖縄県)
- 各校で工夫された体験活動を導入されていることと思いますが、情報の共有化ができればと感じます。本校は航空機を利用したことがなく、課題はわかりませんが、利用するとなると便数のこともあり、困難なことも多いと聞きます。既得権のようなものがあると新しい学校は参入できないことになり、どうしたものかと感じています。(千葉県・東京都)
- 新幹線の座席に多少余裕があれば有り難いが、近修委からJRへの働きかけはできないか。(千葉県・東京都)
- 在来線の新幹線の接続が悪く、往復どちらも1時間待ち。今年は帰路JRではなくバスに変更。(東京都)
- 近修委の集約を利用したいが在来線との接続が悪い。列車本数を増やしてもらえないものか。選択の幅を広げるために「のぞみ」利用も考えて頂きたい。(山梨県・千葉県)
- 近修委の集約を利用しているが、日程が土～月になると体験活動に制約がある。平日実施できるようにして頂きたい。(千葉県・東京都)
- 便数の問題はあっても航空機利用について問題はなかったように思う。逆に初めての生徒も多く、一つの体験として学習の意味合いもあった。家族旅行では味わえない学習意義(集団訓練や自我を抑えること。協力することによる達成感・連帯感等々)があり、今後も続けたい。(北海道)
- 経費全体の縮小を検討している。(長崎県・福岡県)
- 教育委員会から航空機利用の許可はまだおりていない。されれば時間的な巾ができる。(東京都)
- 修学旅行の意義や趣旨を考えると、あえて不安を伴う航空機を利用する必要は考えられない。教師は同じ所への旅行となるが、生徒にはすべて初めての所であり、旅行先を変える必要性はない。(福岡県)
- 一般旅行が低価格化しているのに対して修学旅行の費用は下がらず高くなっている。集約列車は申し込んでも利用できないことがあり、年度によって差を生ずることになるので申し込んでいない。航空機利用ができれば修学旅行に時間的な余裕ができる。(山梨県・東京都)
- 修学旅行の実施日が鉄道会社で決定される虞が考えられるため、基本的に修学旅行専用列車は使わない方針である。(東京都)
- 沖縄への修学旅行が増えているのはいいこととは思いますが、行った学校の内容を聞いてがっかりする。沖縄の実状がわかるポイントを教師がしっかり把握してコースを組むべき。もったいない。(沖縄県)
- 近くでできることを遠くまで行ってする必要性はない。修学旅行の見直しが必要である。経済的な面、子供たちが抱える個人的な事情等高い費用を出してまで行く必要はないと思う。(山梨県・東京都)
- 費用は入学時から積み立てるようにしているが、様々な事情で困難な場合もある。当然旅行後に集金することになるが、複雑な思いがあります。(長崎県)
- 行き先にもよるが、航空機利用は考えていない。修学旅行のような大きな行事では安全面を最優先したい。また、行き先は「ねらいとする学習が可能か」を大事にして考えたい。(山梨県・千葉県)
- 平和学習や今日的な社会問題を考えるなら、沖縄方面が適していると考えます。(沖縄に変更)(長崎県)
- 20年度以降沖縄も候補に入れたいが、航空機の日程が遅くなるので苦慮している。(東京都・千葉県)
- 事前指導に要する時間は相当なものになる。一泊二日程度にすべきであると考えます。(長崎県)
- 沖縄への修学旅行が増えているが、個人的には疑問を感じる。(長崎県)
- 集団で旅行することもなく、勝手気ままな家族旅行の経験しかない生徒が多く、トラブルや規範意識の低下も多く見られる。また、安全面でも難しい問題が多い。集団での宿泊も大切だが、多くの課題がある中での修学旅行になっている。(東京都・千葉県)
- H19年度から沖縄方面への修学旅行となる。希望日に航空機が手配できるか心配。(長崎県・福岡県)
- 沖縄方面への変更を検討中であるが、保護者の理解が得られるかわからない。(長崎県・福岡県)
- 旅行業者の獲得競争もあり、興味ある企画が多くなったことはよい。しかし、従来の内容に上乘せしたため日程的にハードになっている。生徒の希望を尊重しつつ、学習としての修学旅行にしたい。(東京都・千葉県)
- 本修学旅行委員会が航空機の利用促進の考えに立っておられるように感じるのには甚だ疑問に思うところです。例えば、研究発表が航空機利用の学校が発表するなどはその例です。万が一の場合を考えたとき、到底避けられないリスクを背負っての修学旅行には賛成しかねます。新幹線でも同様の事態が起こるかも知れませんが、

- 新幹線利用には国民的コンセンサスは得られていると判断します。(長崎県・熊本県)
- 沖縄方面は4月の料金の安いときに集中する。余程早く決定し、座席確保をしなければいけない。それを除けば初めて乗る生徒も多く、また制空権の問題などよい経験にはなる。(沖縄県)
- 数校が同一機に乗るのはトラブルの元になる。こんな手配をするのは学校の実状を知らないからか。(沖縄県)
- 燃料等の関係とは思いますが、運賃の値上がりには苦慮している。予算を大きく超えた。(沖縄県)
- 航空機利用が可能なら中学生にも近隣のアジアを視野に入れ国際理解を深めてもいいのでは。(長野県)
- 現在は連合で実施しているが、各校の実態やニーズに合わせて方面や内容を考える時期に来ている。沖縄への意向もあるが、安全面・時期・経費など課題が大きい。(東京都・千葉県)
- 経費が年々高くなっている。(東京都)
- 航空機利用が一般化しているため、近修委でも取り扱いを希望します。(東京都)
- 航空機の利用や行き先を沖縄にすることも考えています。時間を有効利用することのメリットがある。小規模校であるので格安旅行の利用も考えています。(東京都)
- 空港までの距離が遠いため、早朝(5:30分)出発、深夜(22:30分)帰着となる。(長崎県)
- 国会見学は1時間以上待って、10分程度である。しかも通り過ぎるだけ。見直しをする。(東京都)
- 高額な旅費(7万~8万)にしては、内容がない。(航空機利用)(東京都)
- 教育委員会の指導で近くの空港を利用できないのが残念。それに伴い経費も高騰。(東京都)
- 近くの空港が座席数の関係で利用できず遠くまで行くため経費と時間がかかります。次年度からは新幹線利用に変更します。(東京都)
- できるだけ有意義で充実した修学旅行にしたいと苦慮しているが、2年先の計画を出さなければいけないので、変更はなかなか難しい面がある。(東京都)
- 継走臨があるので大変助かっているが、新大阪までの時間短縮ができないか。(東京都)
- 教師集団の意思が基本である。充実させる、或いは成功させるか否かは、すべて教師にかかっていると思う。目的をしっかり持つことが求められる。(東京都)
- 修学旅行の申込みが早すぎる。修学旅行について充分考えないまま申し込む。(東京都)
- 時代と共に実施方法や狙いも変化することはわかるが、複雑化するより、シンプルな中に友情を深めたり、役割を果たす責任感を育成する方向がより重要であると考えます。(山梨県・千葉県)
- 委員会にお世話になることは有り難いことですが、日程を学校で決めることができず行事に影響します。また、曜日によっては勤務の割り振りに苦慮することもあります。(東京都)
- 新幹線は「のぞみ」利用ができるようにしてほしい。(東京都)
- 本市では旅費の上限があり、行き先・活動に制約がある。のんびりとした時間を作りたい。(長野県)
- 実施された各校の旅程とよい点・悪い点を具体的に紹介されると有り難い。(長野県)
- 沖縄集中傾向の中で、三空港利用の割り振りが事前にどうしてできないのか。(千葉県・山梨県)
- 航空機の運賃割引について、航空会社の協力がほしい。このままであれば利用できない。(沖縄県)
- 航空機利用は費用が高く、公立学校としては保護者負担をもっと真剣に考えるべき。(長野県)
- 航空機は便の確保が難しい。新幹線と同じように調整できないか。(沖縄県)
- 便の確保が不確定、高い経費、安全面等から中学校で航空機を利用せざるを得ないような場所を目的地とする必要はない。(長野県)
- 近修委は航空機の増便の要請を航空会社に働きかけてほしい。(沖縄県)
- 様々な制約があるのに、航空機を利用する意味はない。(沖縄県)
- 航空機を利用しているが、事故等を想定した場合、近場で体験的なものを盛り込んだ内容が望ましい。(沖縄県)
- 沖縄でのマリンスポーツが高額である。(沖縄県)

平成 18年 3月

近畿地区公立中学校修学旅行委員会  
財団法人 全国修学旅行研究協会